

株式会社テクノスマート 2022年3月期 決算説明資料

2022年3月31日現在

証券コード：6246

東京証券取引所 スタンダード市場

<https://www.technosmart.co.jp/>

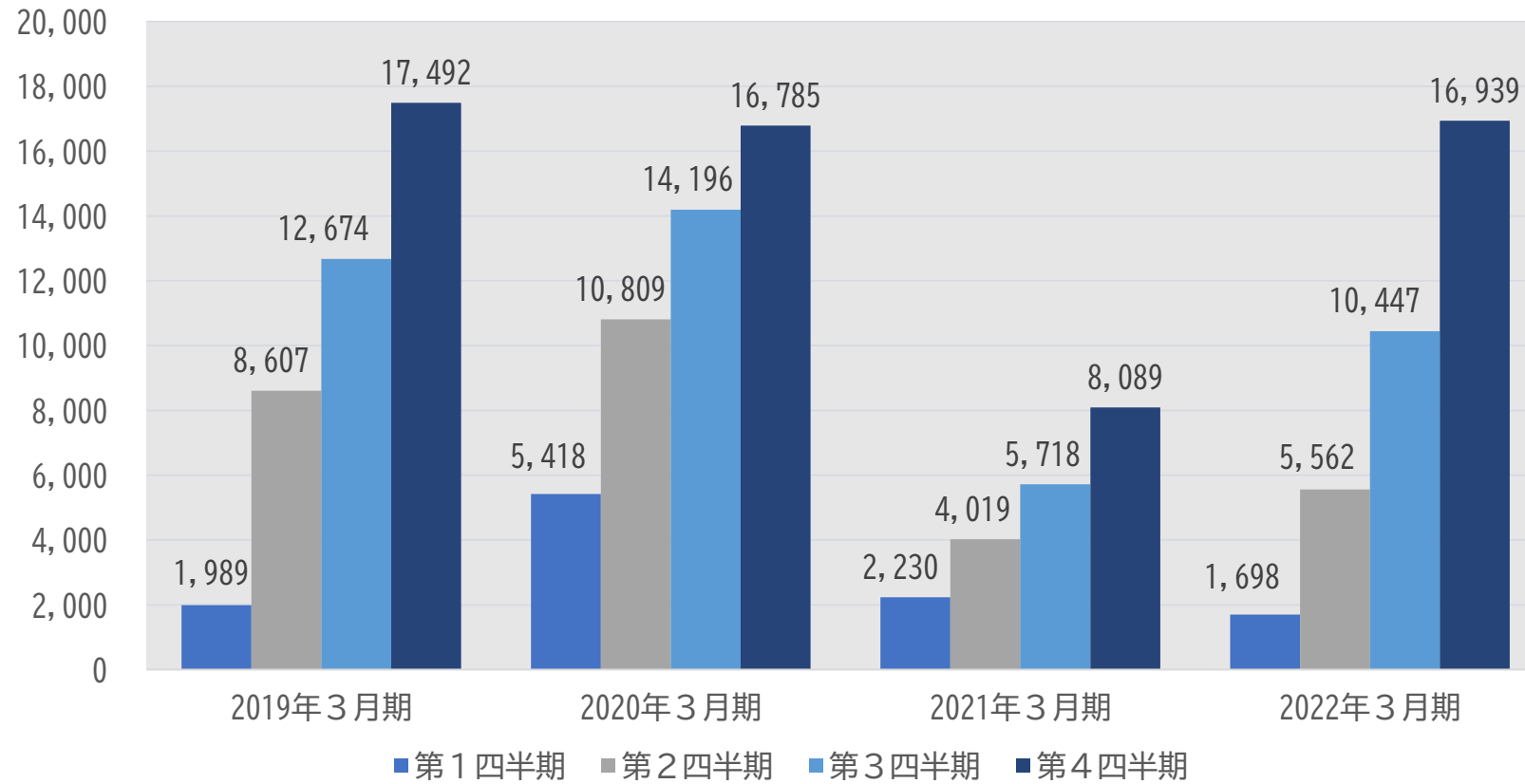
2022年3月期 決算 概要

(注) 2021年3月期は「収益認識に関する会計基準」を遡及適用した金額に修正して記載しております。

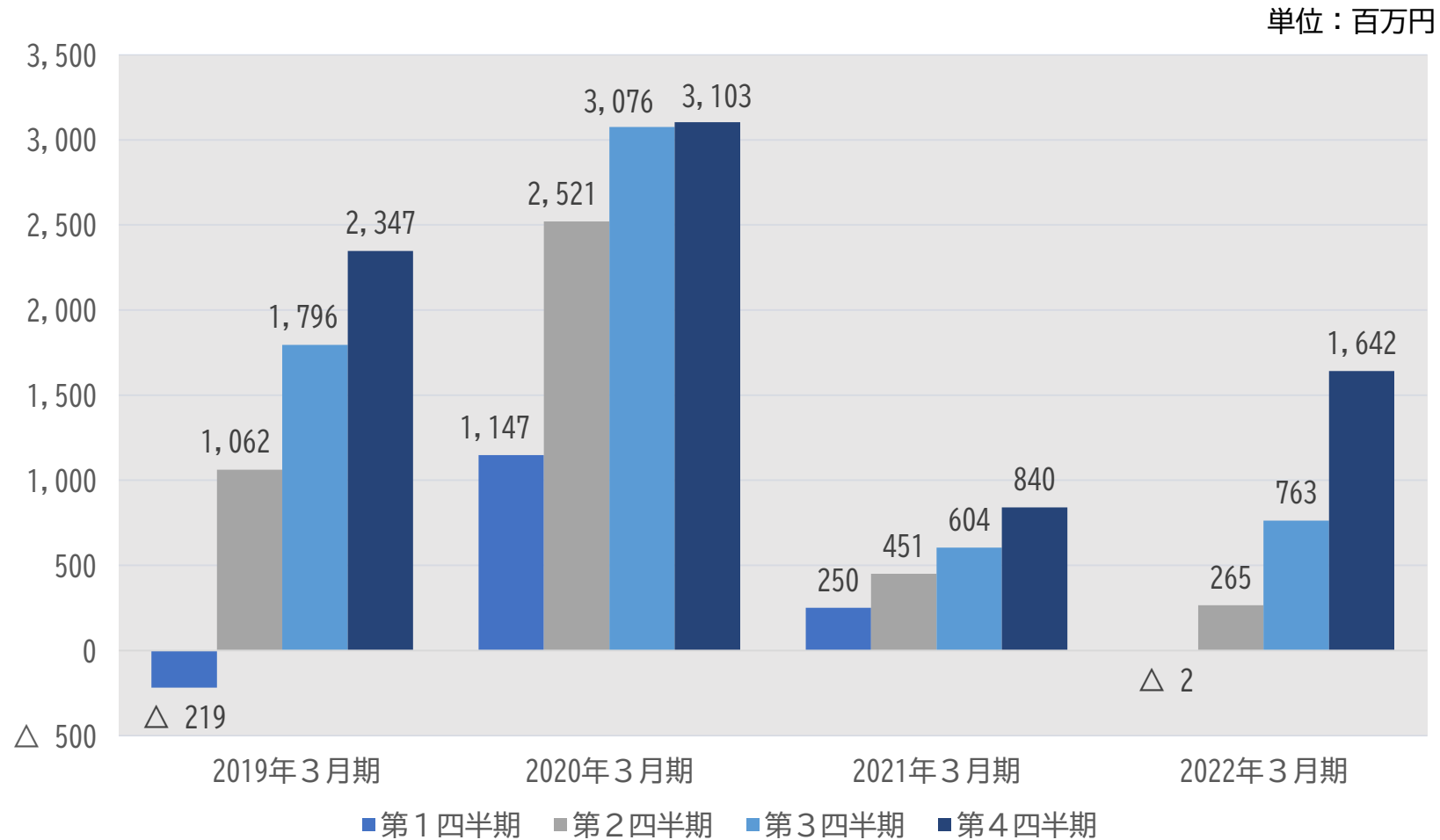
単位：百万円

	2021年3月期 通期		2022年3月期 通期		
	金額	売上高に対する比率	金額	売上高に対する比率	増減率
売上高	8,089	100%	16,939	100%	109.4%
売上総利益	1,426	17.63%	2,467	14.56%	73%
販管費	585	7.23%	823	4.86%	40.7%
営業利益	840	10.38%	1,642	9.7%	95.5%
経常利益	914	11.30%	1,692	9.99%	85.1%
当期純利益	579	7.16%	1,164	6.87%	101.0%

単位：百万円

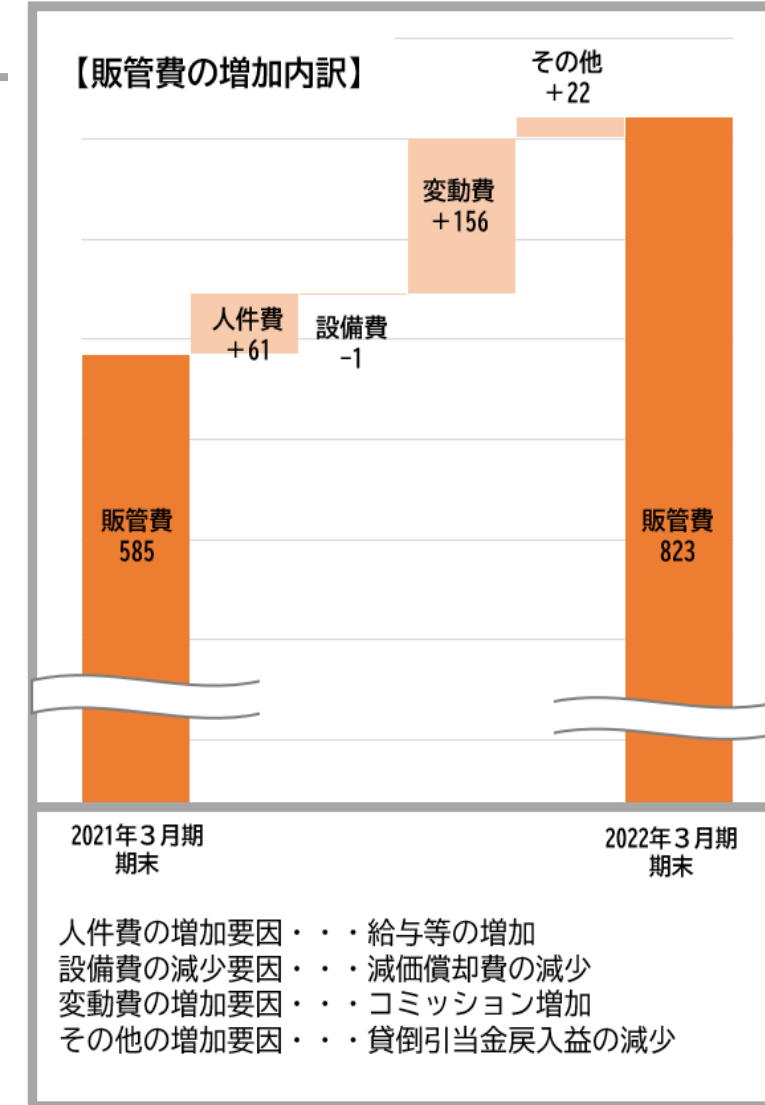
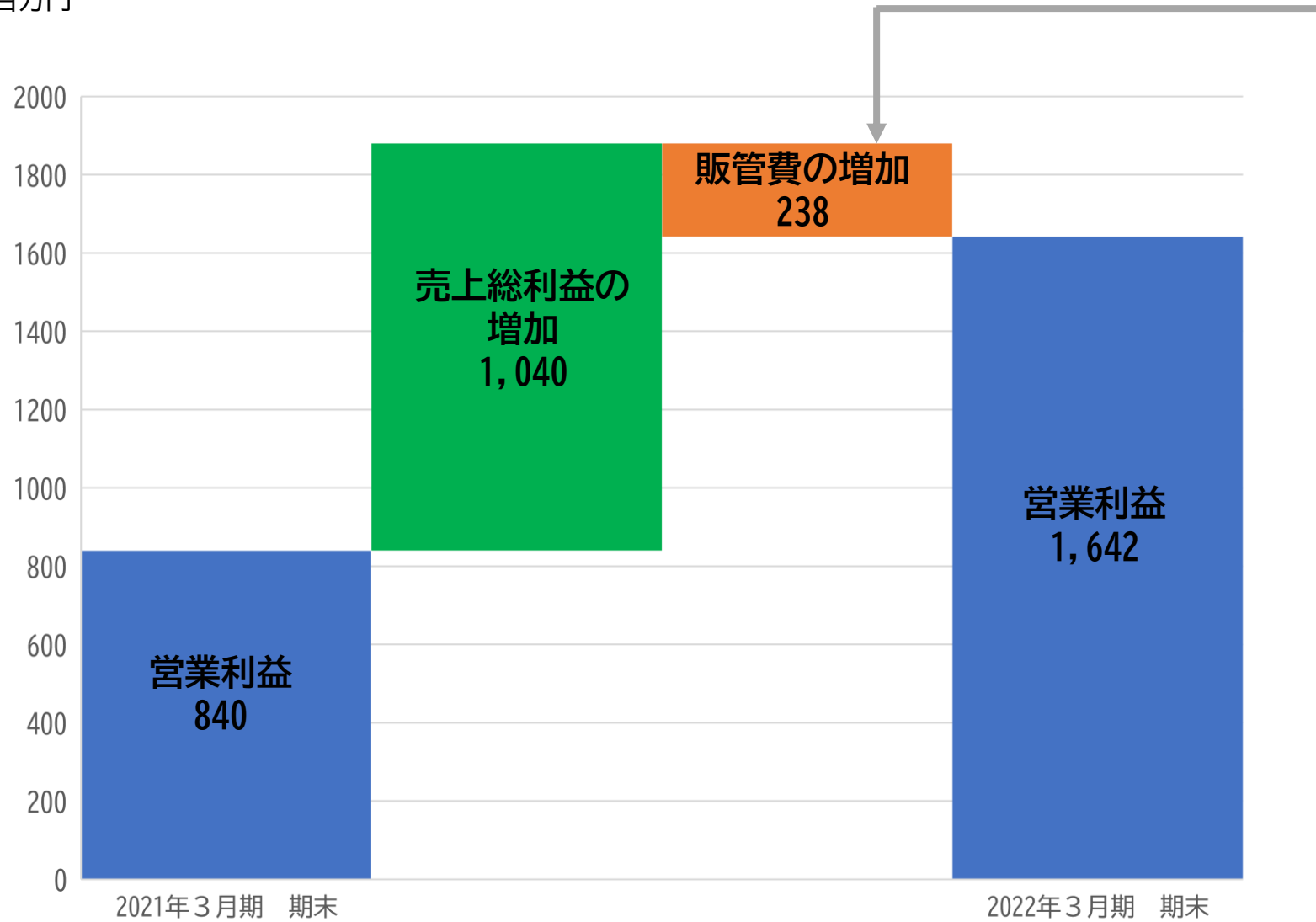


②営業利益の推移



③営業利益分析

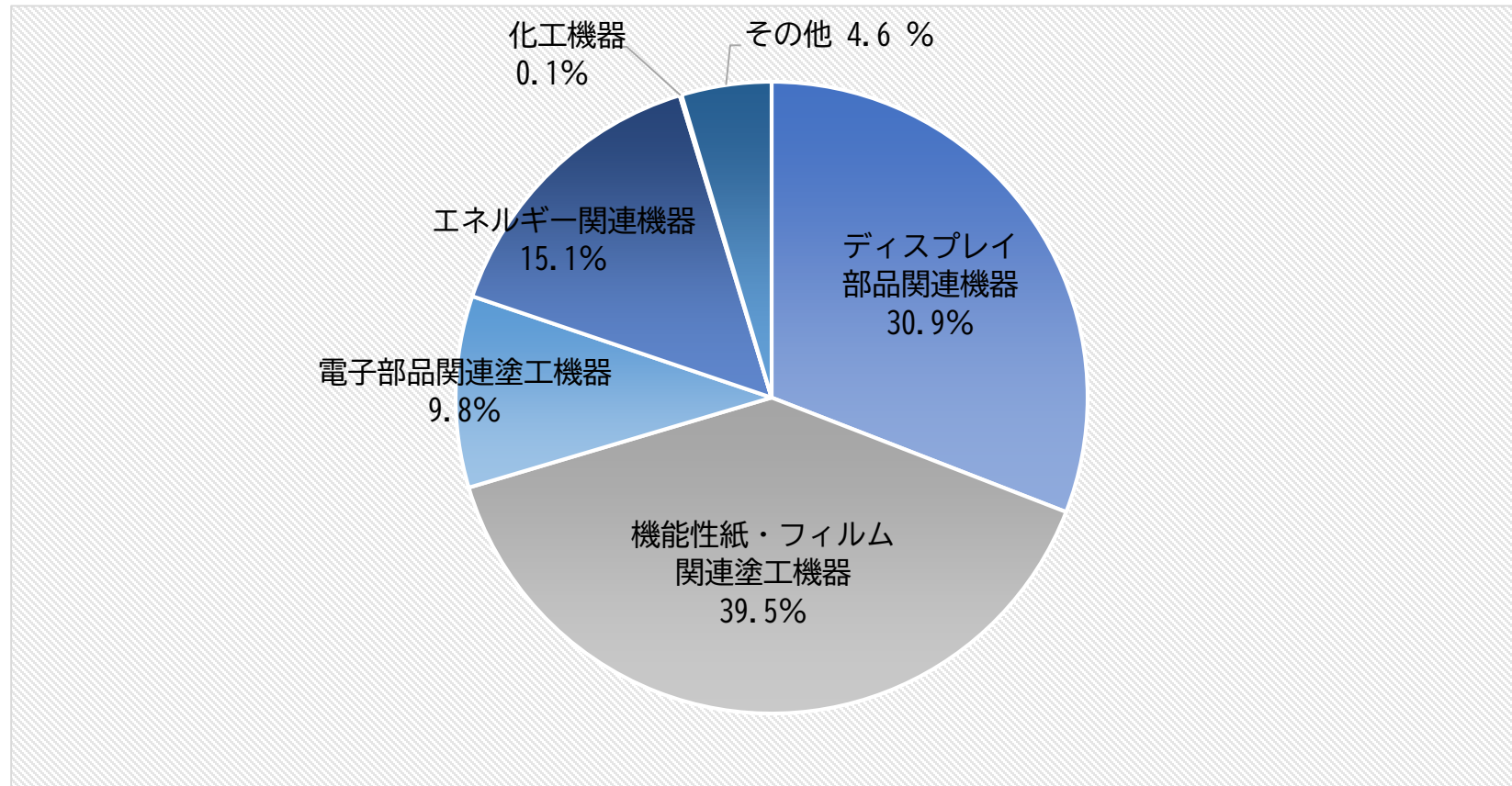
単位：百万円



④製品別売上高

単位：百万円

	2021年3月期 期末		2022年3月期 期末			[ご参考] 用途
	売上高	売上高 構成比	売上高	売上高 構成比	増減率 (%)	
①ディスプレイ部品 関連機器	1,445	17.9	5,227	30.9	261.7	フィルム製膜装置（ディスプレイ用偏光板）
②機能性紙・ フィルム関連塗工機器	4,225	52.2	6,690	39.5	58.3	濃ビPOフィルム乾燥装置
③電子部品関連塗工機器	637	7.9	1,666	9.8	161.7	フィルム製膜装置（FCC L用PI）
④エネルギー関連機器	907	11.2	2,565	15.1	182.7	電池用電極、セパレータ、外装用アルミ箔処理装置
⑤化工機器	66	0.8	6	0.1	△90.6	高機能性繊維・不織布関連の製造・乾燥・ 熱処理装置
⑥その他	809	10	784	4.6	△3.1	
合計	8,089	100.0	16,939	100.0		



2. 貸借対照表

単位：百万円

	2021年3月期		2022年3月期	
	期末		期末	
	金額	金額	金額	増減額
流動資産	16,609	23,205		+6,596
現金及び預金	10,461	10,639		+178
売上債権	5,595	11,078		+5,483
棚卸資産	186	552		+366
未収還付法人税等	205	-		
未収消費税等	-	550		
その他	176	393		+217
貸倒引当金	△14	△7		+7
固定資産	5,530	6,112		+582
有形固定資産	3,925	4,509		+584
無形固定資産	13	12		△1
投資その他の資産	1,592	1,592		0
資産合計	22,138	29,316		+7,178
負債の部	5,391	11,911		+6,520
流動負債	4,091	10,564		+6,473
仕入債務	2,326	8,060		+5,734
前受金	1,399	1,597		+198
その他	366	906		+540
固定負債	1,300	1,347		+47
純資産の部	16,747	17,406		+659
株主資本	15,151	15,880		+729
評価・換算差額等	1,596	1,526		△70
負債・純資産合計	22,138	29,316		+7,178
有利子負債	3	-		
自己資本比率 (%)	75.6	59.4		△16.2

【主な動き】

- 資産・・・71億78百万円の増加
 - ・ 受取手形、売掛金、契約資産・電子記録債権の増加 54億83百万円
 - ・ 有形固定資産の増加 5億84百万円
- 負債・・・65億20百万円の増加
 - ・ 買掛金及び電子記録債務の増加 57億34百万円
 - ・ 前受金の増加 1億98百万円
 - ・ 流動負債その他の増加 5億40百万円
- 純資産・・・6億59百万円の増加
 - ・ 利益剰余金の増加 8億66百万円
 - ・ 自己株式の増加△1億37百万円

単位：百万円

	2021年3月期 期末	2022年3月期 期末	
	金額	金額	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	5,161	1,372	△3,788
投資活動による キャッシュ・フロー	△363	△759	△395
財務活動による キャッシュ・フロー	△525	△439	85
現金及び現金同等物 の増減額	4,272	177	△4,095
現金及び現金同等物 の期首残高	6,088	10,361	4,272
現金及び現金同等物 の期末残高	10,361	10,538	177
(ご参考) フリー・キャッシュ・フロー	4,729	631	

(注) フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 有形固定資産の取得による支出

【主な動き】

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前期末に比べ177百万円増加し10,538百万円となりました。

[営業活動によるC/F]

営業活動の結果得られた資金は1,372百万円となりました。これは主に、税引前当期純利益と売上債権の増加及び仕入債務の増加によるものです。

[投資活動によるC/F]

投資活動の結果使用した資金は759百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものです。

[財務活動によるC/F]

財務活動の結果使用した資金は439百万円となりました。これは主に配当金の支払及び自己株式の取得によるものです。

2022年3月期 当社戦略と見通し

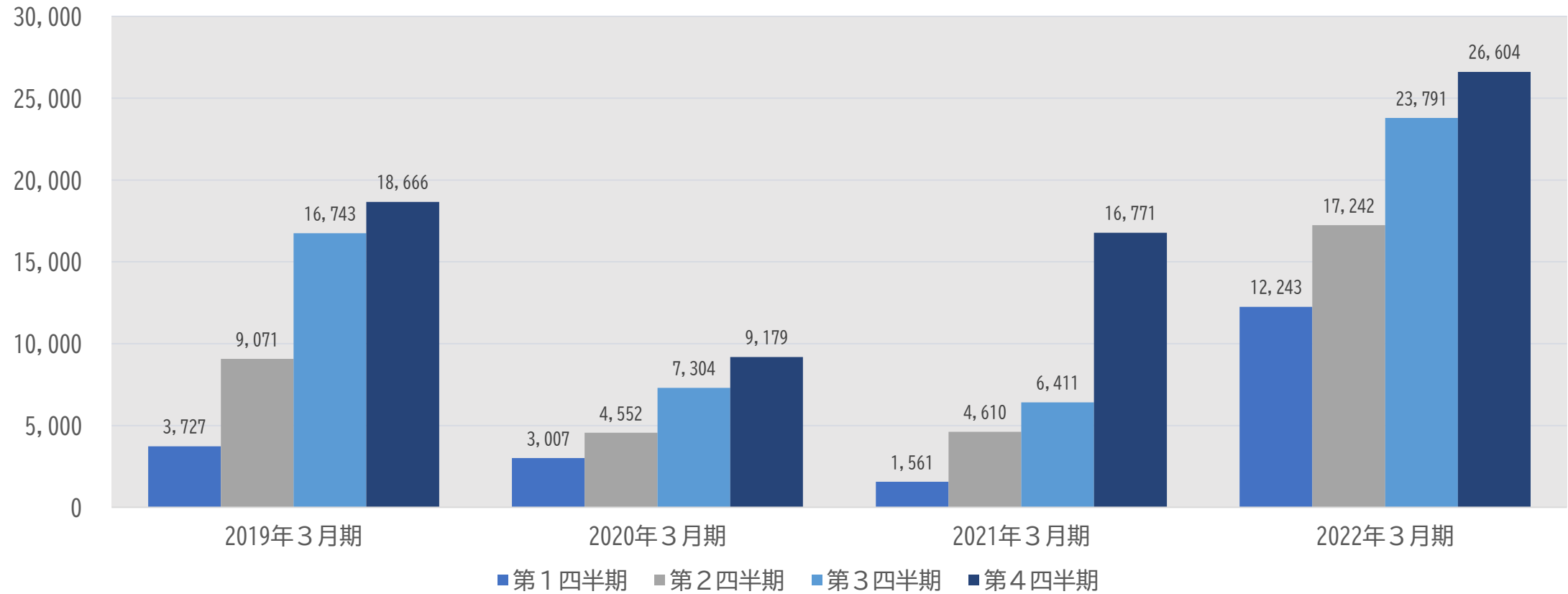
(注) 2021年3月期は「収益認識に関する会計基準」を遡及適用した金額に修正して記載しております。

		2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	30.00 (8.00)	40.00 (15.00)	50.00 (18.00)	18.00 (4.00)	35.00 (10.00)
1株当たり当期純利益	(円)	83.14	131.95	164.06	46.78	94.18
配当性向	(%)	36.1	30.3	30.5	38.7	37.2
株主総利回り(注)	(%)	165.2	124.7	106.7	199.0	184.0
自己資本利益率(ROE)	(%)	7.5	11.7	13.0	3.5	6.8
株主資本配当率(DOE)	(%)	2.8	3.4	3.9	1.3	2.5

(注) 株主総利回りは、2022年3月期を基準に5事業年度前の株価・配当を用いて算出した数値を記載しております。

2021年度 業績予想 (単位：百万円)	2021年度 (計画)	2021年度 期末時点	達成率	
売上高	16,000	16,939	105.9	%
営業利益	1,170	1,642	140.3	%
経常利益	1,200	1,692	141.0	%
当期純利益	800	1,164	145.5	%

単位：百万円



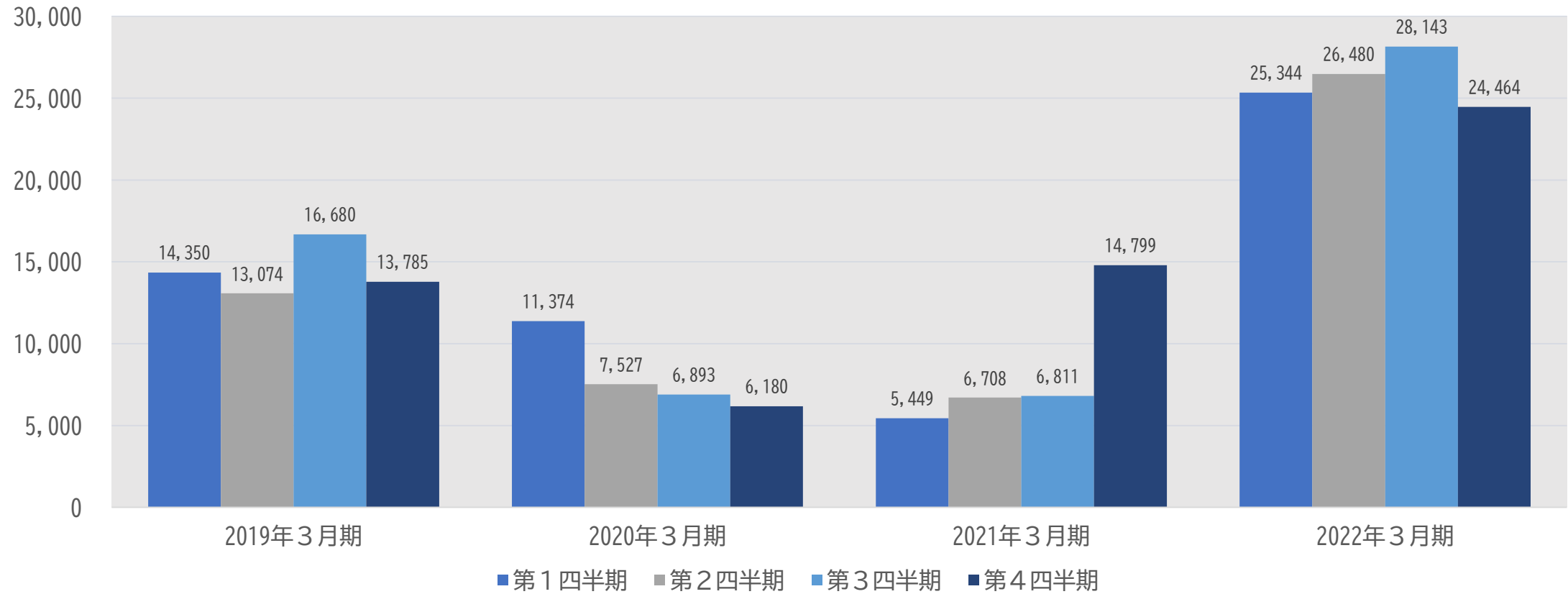
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による業界への影響と、業界の動きや対応

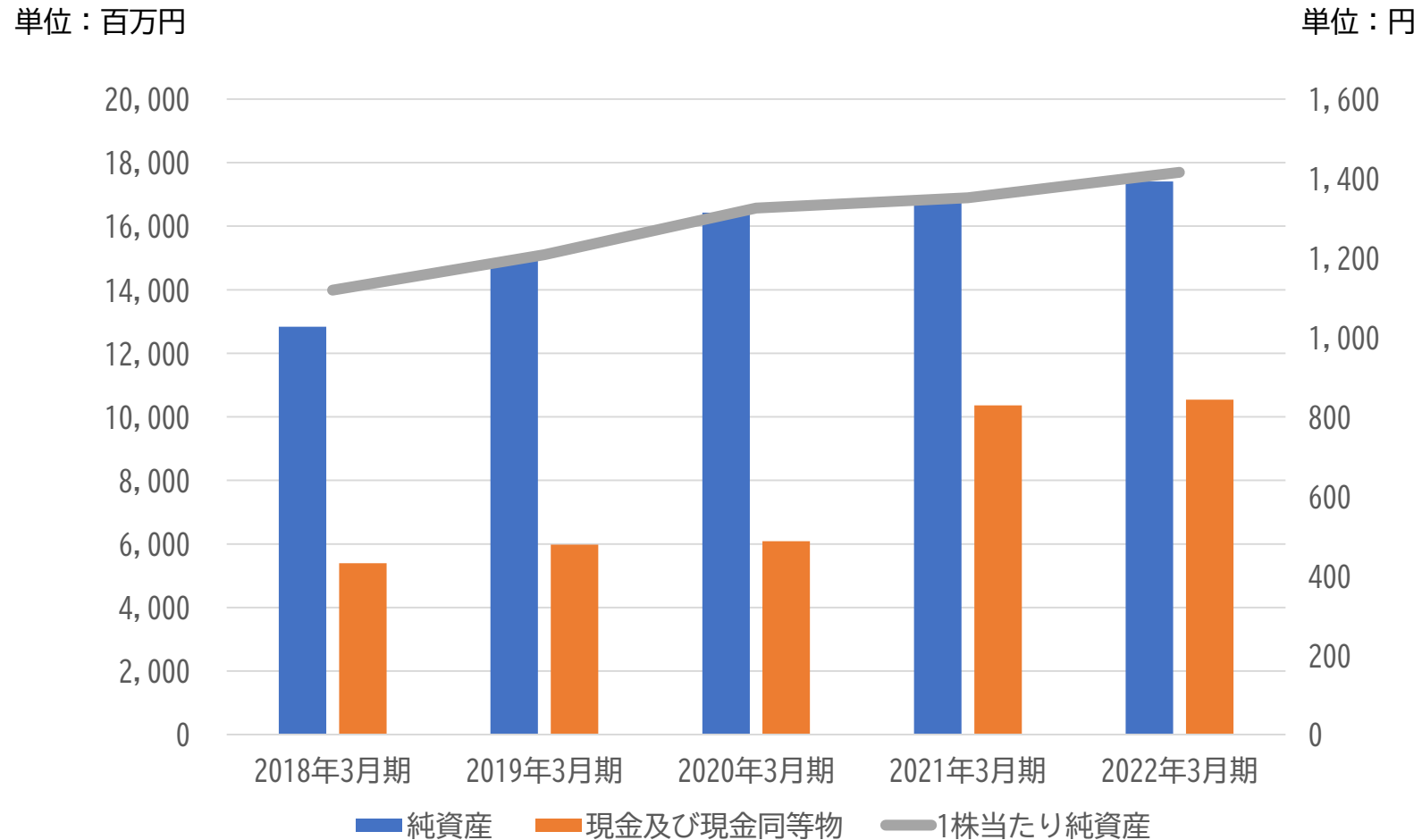
COVID-19による業界への影響	業界の動きや対応
<p>新型コロナウイルス感染症の新規感染者数に落ち着きが見られるものの、新たな変異株の発生もあり油断できない状況</p> <p>世界的な物流の停滞が発生し、半導体などを始めとする部材の調達に時間がかかり、サプライチェーン全体に影響を与えている</p> <p>経済活動の再開に向けての強い動きはあるものの、コロナ禍で疲弊した産業分野も多く以前の状況までの回復には時間がかかる状況</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、海外での据付や試運転を中断せざるを得ない時期がありましたが、客先のニーズに応えるべく現地で一定期間の隔離を受けることで、効率の悪さはあるものの概ね計画通りに進捗</p> <p>スマートフォン・タブレット端末及び液晶テレビ、またIT関連のウェアラブル情報端末や、付属するタッチセンサーの光学系フィルム関連業界などの底堅い需要に加え、EV車、HEV車、PHEV車及びFC車などの二次電池用エネルギー関連業界もコロナ禍による影響はあるものの、グローバルな展開により更に伸びが期待</p>

社会における当社の役割と、当社の「社会的責任」への取り組み

社会における当社の役割	当社の「社会的責任」への取り組み
<p>当社は、お客様やお取引先様との信頼関係を築いてきたことが自社の強みと認識し、今後もニーズを形にする技術で、新しい価値の創造に取り組み、存在価値を一層高めることにより、全てのステークホルダーの皆様により一層信頼され、社会に貢献できる企業を目指します。</p> <p>当社では、サステナビリティへの取り組みや人的資本の確保を、自社にとってのリスクであり機会でもあると認識するとともに、十分な開示を行っていくことは、投資家に対して広くESG投資を募るための有用な手段であると認識しております。</p>	<p>1960年代から、滋賀事業所における環境汚染物質の排出削減に取り組んでいます。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p> <p>当社が製造、販売する設備から環境汚染につながる部品、材料を極力排除し、お客様の生産工程において排出される廃液類の流出事故が発生しない設計、製造を行っています。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p> <p>塗工・乾燥装置を標準化することで製品開発から量産までの期間短縮に取り組んでいます。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p>

単位：百万円

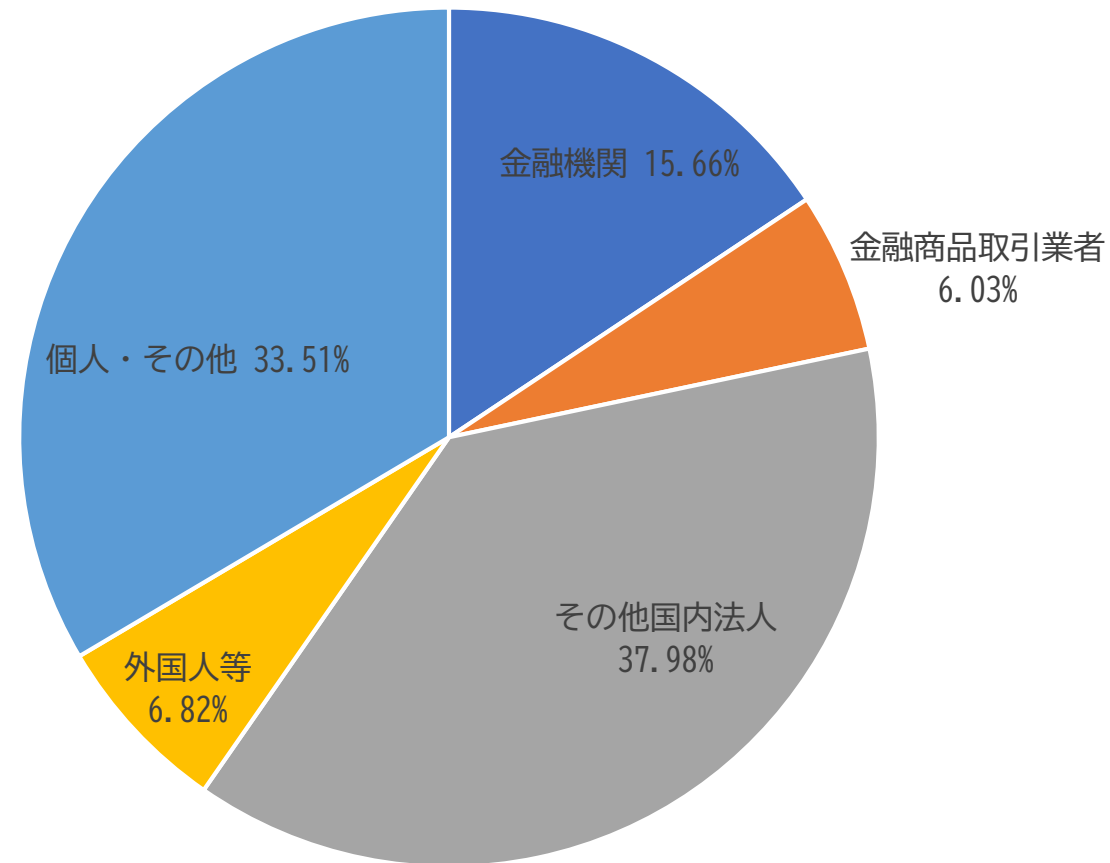




- 次世代新型二次電池などを顧客と共同研究開発
- AI、ビッグデータ、IoT対応、完全自動運転技術、省エネルギー対策及び節電・蓄電対策、地球温暖化対策、高速通信規格（5G）、サステナビリティ、DXなどに関連する分野への更なる進出
- 新型テストコーターの増設計画の推進及び海外へのグローバル展開を積極的にスピーディーに展開していく予定

株主還元について

所有者別株式分布



■ 配当の基本方針

当社の利益配分につきましては、すべてのステークホルダーの皆さまに対し、「公平」且つ「公正」を念頭に置きつつ、また企業体質の一層の強化と、今後の事業展開に備えるための内部留保の充実、自己株式の取得、安定的な配当及び各期の業績等を総合的に勘案し、株主の皆さまへ適正な利益還元を図ります。

なお、株主優待は実施しておりません。

■ 2023年3月期の予想と過去の実績

決算年月	実 績					予 想
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
1株当たり 当期純利益金額 (円)	83.14	131.95	164.06	46.78	94.18	105.73
1株当たり 配当額 (円)	30.00	40.00	50.00	18.00	35.00	39.00
配当性向 (%)	36.1	30.3	30.5	38.7	37.2	36.9

お問い合わせ先等

本資料の内容に関するお問い合わせにつきましては、
下記までお願い申し上げます。

管理統括部 企画・IR推進グループ
TEL 06-6253-7200（代表）

本資料には、当社の業績見通し等の将来に関する記述が含まれておりますが、これらは、本資料作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、実際の業績等につきましては、今後様々な要因により、大きく異なる可能性があります。